

万葉、古今、新古今

① 万葉集について

。成立：八世紀後半

。編者：大伴家持が深く関与したとされる。

。特徴：力強く素朴な五七調。東国の人々の東歌や

北九州地方の警備にあたる兵士による防人歌

ひいも収録。

② 古今和歌集について

。成立：十世紀前半

。編者：紀貫之が4人。

。特徴：概知に富み、優美な七五調

③ 新古今和歌集について

。成立：十三世紀前半

。編者：藤原定家が5人

。特徴：華やかで技巧に優れたものやしめやかで内容的

なものがある。七五調。

おんことば

枕詞：語調を整え、特定の語句を導き出すために

その語句の直前に置く言葉。多くは五音である。

例

あはやぶら

神世も開かたつた河

例

むかふ身の滴ににびる山の木の葉かてれ (紀貫之)

序詞

(あかきもを導く)

序詞：ある語句を導きだす言葉。枕詞よりも音数が多し。

掛詞：一つの語に同音の複数の語の意味を持たせる。

例

山里は、人目も草毛かれぬとおもへば (源宗子)

掛詞

(山日が海をさし草川かたる)